

邊要分界圖考

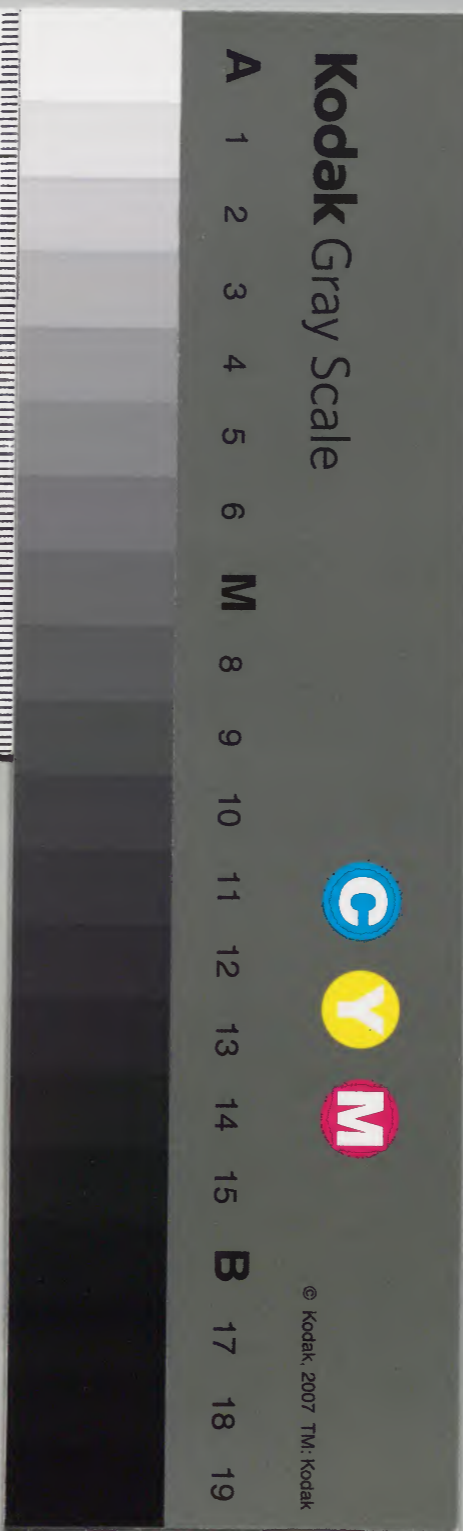
四

			二九四一八	和書門
		一三二	八	
七册	五架	函	號	類

庫文閣內				
七八	二九四一八			和書
函	八	七		
四架	冊	號	類	

內閣文庫	
番號	和 29418
冊數	7 ( 4 )
函號	178 116

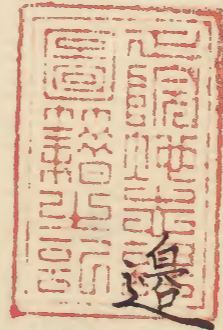
內一〇七四五號







邦キエ  
弗ガ  
加カ  
図



要分界圖考卷之四

丙一〇七四五號

近藤 守重 輯







子ユフカ蝦夷人之図

是、此方蝦夷ノ魯西風俗ニ化シタルナリ

髪ハ梳テ、毛右ハ分ケ、未辯シ、後ロハ出ル



名イチヤニケムシ  
子イモニケセツル  
妻イナニヤウヒツ

人ニ對シテ、袴スルニ、男女トモ、立テ、大指人指中指ニ本ヲ一聚ノ先ツ、額ニ當ラ次ニ、物ニ當テ、左ノ肩、右ノ肩ト當テ、後ニ、頭ヲウナズキ、袴スルニ

眼ハ、エトヒリカト云、鳥ノ皮ヲ丸ムキニシタルヲ羽ヲ裏ノ方ニシテ、裁ヲモ、綴リ縫ヒ用ニ、縁ハ黒キ、犬ノ毛ヲ皮トモ、小ツ切リ、エトヒリカノ嘴ヲ綴リ附ケ、股引ヲ着シ、靴ハ、海豹皮ニテ、圖ノ如ク、脚ヲ作り附ニ作ル

按ニコシヤ人ノ言ニ、云指ヲ、腰ル下大指ヲ、我父トシ、人指ヲ、我子トシ、中指ヲ、我氣トス、父ナケレハ、生セズ、子ナケレハ、禽獸ニガリ、氣ナケレハ、死ス、故ニ之ヲ以テ、仙ニ請ルニ、是ヲ各ケケレヌ、タト云

鉄炮、玉茶ハ、コシヤ人ヨリ得ル所ナリト云、鉄炮、火方仕、越ナリ

婦人ノ帽子ハ、下地ヲ厚ク、及中ニ、梅（其上）更欽ヲ三角ニ折テ、前ニ當テ、後ロ（旦）テ、結ヒ、隔ノ端ハ、後ロ（齒）レヲナリ



童子ノ頭、間、掛スル、斗、文字ヲ、鉄物ニテ、糸ヲ、附ケ、頭（掛）ル、是ハ、守リ、由ニ、ヲロシヤノ、教師ヨリ、与ル、所ナリ、其、名ヲ、ケレ、ヌ、タト云



千エフカ帽子之図

皮ヲ作ル裏ハ紙皮ナリ  
千エフカ夫人及魯西亞人モ  
用ユト云



婦人ノ  
帽子



下地ヲ如图以巾ニ竖ク  
拆ラキ上更紗ノ眼  
紗ヲ三隅折テ前ヨリ  
ウシ只廻ニ結モテ隅  
ノ端ハ後へ垂ル

エトピリカ鳥之図

此鳥東ハエトロフ島ヨリ  
奥島ニ西ハカラフト地ヨリ  
奥ニ多シ大サ鴨ノ如シ羽  
黒ク嘴紅シテ美ナリ故  
ニ名クエト六嘴セリカハ美  
ノ美言ナリ





クルムセ夷人革舟之図

小舟ノ骨ヲ楫ヘ皮ニテ丸ニ包ミ  
巾着ノ口ヲ銘リタル如クニテ身ヲ  
容レ凡波ニモ水ノ入ラザルヤウニメソ切  
ル艇吏ハトントキツブト云魯西無ハ  
一イタレト云  
艇夫入云ウルツフ島ニテクルムセ  
此舟ニ乗リテ矢ヲ持テ島ヲ遠  
ヒナカラ權ハ左右ニ揺タリ意フニ  
中ニ糸ナドヲ仕掛タルヲ足ニ擢  
ヲ勤スナラン





四国阿波着岸鲁西亜人之図

明和八年魯西亜人ハシゴゴウ  
 一名アウスカムラスカトオホツカノ向ラ  
 リ出船シラシモシリ島ヲ經テ日本ノ  
 東海ヲ廻リ針路ヲ測リ阿波工船  
 繫シテサ新水ヲ取り支ヨリ琉球  
 大島へ至リテ長崎ノ紐毛  
 加比丹一呑筒ヲ送り阿波ノ  
 恩ヲ謝シ且奥振夷地松前  
 ノ要害ヲ告ク越セリ其始未  
 洋ニ本文ニ載ス



此圖本吞甚廉ナリ故ニシノ  
 客自服飾ヲ見ルニシテラズ始ク  
 本吞ノ一ニニ字スニ



長ノ名  
 ハロモリワアラナタルハンベンゴロウ  
 一名アウス



東蝦夷地アツケン渡来魯西亞人之図

安永八支年魯西亞人交易ノ事ノ由ニテ  
アツケンノ内々クミライ迄渡来  
ス其ノ本文ニ詳ナリ



谷シバタン

髪ハ白クテ糸ノケタルカ如キ  
色ニ眉モ月シ眼中ハ茶色  
ナリ  
上着花色羅紗肌引白ヒロウド  
笠星ヒロウド縁ハラツコ皮ヲ作ル

手ニ更紗ノ巾ヲ持リ靴ハ皮ナリ  
太刀ハ銀ノ鞘柄ハ皮柄ニ鍔ナシ

谷

イワニエレゴーイシユサスースコイ

眼ハ表ハ紺木綿ニ裏ハ黒キ毛皮ニテ  
指縁ハラツコノ皮ニ附ル靴着ハ白キ論子ニ  
白鳥ノ羽ヲ真ニ入レ又ヲ論子ノ模様ニ糸ニテ  
刺シ縫ニシタルモノニテホタンハ銀ナリ





ウルツプ島在苗魯西亞人之國

寛政七八年ノ頃ヨリウルツプ島ヨ  
渡来在苗今ニ帰ラズ



髪ハ少ク赤シ眼中ハ  
犬ノ目ノ如ク瞳子白  
ク見ユ  
唐木綿ヲ着ス

名  
ワシレイエレニヲフズエズトンケレトフセ

同

名  
イワンエレゴリーシユサスノスゴイ

服ハ表ハ紺木綿ニテ裏ハ黒キ毛皮ニテ  
襟ハ縁ハラワユノ皮ニテ附ル肌着ハ白キ綸子ユ  
白鳥ノ羽ヲ真ニ入レ夫ヲ綸子ノ模様ニ糸ニテ  
刺シ縫ニシタルモノニテホタシハ銀ナリ





ウルツプ島在留魯西軍人之図

寛政七八年ノ比ヨリウルツプ島へ  
渡来在留今ニ帰ラズ



髪ハウス赤シ眼中ハ  
犬目ノ如シ瞳子白  
ク見ユ  
唐木綿ヲ着ス

谷  
ワレレイコシマ  
プスユストシケ  
レーブセ

女ノ名

セナシエラニウ  
リイナ  
ヲニシヤアレキ  
セエワ

銀魚(魚肉)  
ヲ盛タル図

子供ノ名

ナタリヤ  
一ドシヤ

顔色至テ白  
シテ桃色ナリ  
後ハウス赤ク  
眼中ハ犬ノ目  
如シ

頭ハ紅ノ切ヲ如圖  
被ル上着ハ猩々緋ニ  
唐織ヲ背ヨリヲリテ前ニテ結フ  
袴ハ白羅紗一赤萌黄等ヲ模  
様ヲ領ニス靴ハ皮ナリ





唐銅ノ鑄物ナリ  
蝶ツカイ有リ仏像ハ硝子  
ヲ焼付タル如ク其彩色悉ク  
細密ナリ



魯西亞人所持佛像銅板之圖  
赤人イシテ所持スルモノヲ写ス

ウルツノ島魯西亞人大筒ヲ布圖

此六挺夫凡ノ  
倉ナリ此倉ヲ  
作テ大筒鉄炮  
其外貯ヘ置ニ  
大筒モ直ニ此塚  
ノ上ニテホタルヲ  
見ルマニ圖ス







邊要分界圖考卷之四

チユブカ  
邦弗加考

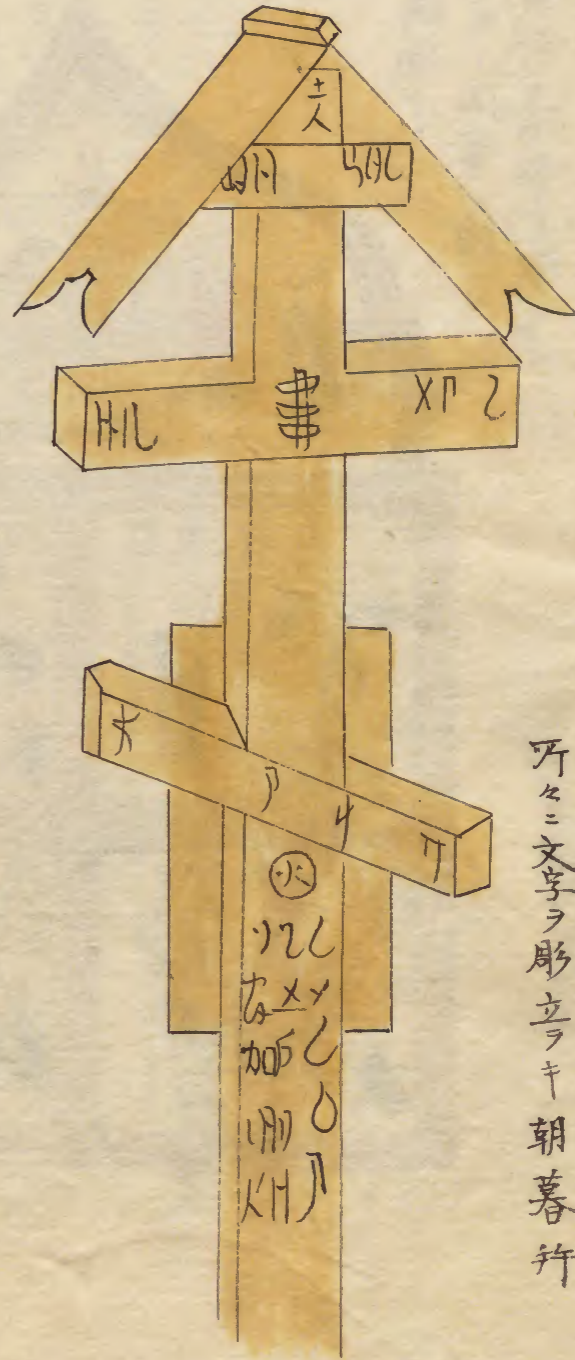
東海ウルツプ嶋ヨリ前路シモシリ島ヨリカム  
 サスカ地方ニ至ルマテ凡十餘島ニ嶋ニ十丑寅  
 世ノ所謂千嶋ニシテ蝦夷人之ヲ称シ  
 テチユブカト云チユブカーハ日出処ト云ノ義  
 ナリ 蝦夷人ハ日月ヲ指テチユブカムイト云魯西亜国  
 主ヲ称シテチユブカモイトト云魯西  
 亜夷人ヲチユブトノト云共ニ日出ル人ト云  
 ナリ一説ニ初ロシヤ人諸島ニ来ル時夷人

内一〇七四五號

近藤子重輯

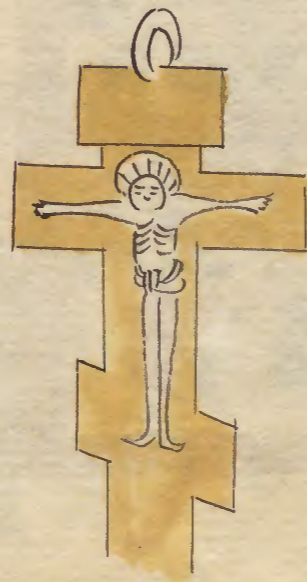
エトワ嶋魯西亜人立テシ十字佛ノ図

三四寸ホトノ角物ニテ高サ一丈余  
 所々ニ文字ヲ彫立ラキ朝暮拜



魯西亜人イシテ所持  
 十字鋼仙之図

唐鋼ノ鑄物ナリ朝夕  
 之ヲ拜スモシケレスタ  
 ト云  
 千ヲカ蝦夷人ノ所持所モ亦此物ト云







諸ラ曰我國ノ帝王ハ日月ノ尊カ如シト故ニ夫人  
キエブカカムイト称シ其屬島ヲキエブカト云ク又通ス  
蛮書 紅毛子七百六十 之ヲクリル諸島ト云 書

ニニカムサスカノ南ノ出寄ヨリ南西ノ日本ノ方迄  
大小ノ島連續シタルモノ大凡二十五一三曰三

十六其餘ハ詳ニシカタクカムサス  
カニ近キハ皆魯西亞ニ屬ス 其島大ナル

モノ十六小ナルモノ無数古昔ニテ我蝦夷

ノ屬嶋タリシニ八十年前 正徳中 魯西亞人カ

ムサスカヲ倭吞シテヨリ漸々ニ諸島

ヲ蠶食シテ三十年前ヨリシモシリ迄テ

服従シテ其嶋々ノ名ヲ改メテ魯西亞ノ

名トナシ二十年前ヨリ夫人ノ風俗ヲ易ヘテ

魯西亞ノ風俗トナシ往古ヨリ日本ニ屬

セシ 蝦夷夫人ヲシテ髪ヲ辮シ帽子ヲ被

リ股引ヲ用ヒ靴ヲ穿キ鉄炮玉棊ヲ与ヘ

魯西亞人ノ言ヲ使ヒ魯西亞ノ佛ヲ預

ニ掛テ魯西亞ヨリ役人並ニ教法師ヲシテ教

夫人ハヨウロツイ  
シヤムト云フイ 時々諸島ニ至リ撫順セシメ

其夫人モ尽リ魯西亞ニ貢シ入ルニ至ラシ

メ十年前ヨリウルツブ島ニ到リテ土着シ傲



然トシテ去ラナルニ至ルカムサカガハクルムセノ  
 国地ニシテ本我蝦夷ノ種族ナリ其地  
 今魯西亞北海ノ要津トナル嘆スヘキニ  
 アラスヤチユブカ諸島ノ地理前輩ノ圖書  
 大抵疎漏タカラス天明中京上常矩  
 嘗テウルツブ島ニ至リ魯西亞人イシユエヲケ  
 タニ邂逅シテ其大畧ヲ得タリ然レモ未タ  
 其詳ナルヲ得ス寛政十二年守重奉  
 年シテエトロフ嶋ヲ按察シ  
エトロフ島モ古  
 未日本人注キ

シテ更ニナシ寛政十年守重初テ此島工渡  
 リシハ前後日本人渡海ノ四度目ナリ其  
 時守重京上常矩ト共ニ此島ヲ見寤キ翌  
 十一年海路ヲ完キ十二年山田嘉允ト廻船ニ  
 乗テクナシリ島ヨリ同島トリカマイエ着  
 シシイト工會所ヲ立ツ是レ此島日本ノ  
 ヲ通シ日本ノ家  
 ヲ立シ初ナリ  
 魯西亞人建ル所ノ十字  
 シ倒シ  
是ヨリ前  
 在苗シ十字ヲ立テ夫人工法ヲ教  
 一夫人ノ中其仏ヲ受ケ其風俗ヲ變スルモ  
 有ルニ至ルエトロフ島ニヤルシヤムノ夫人ハウ  
 シヒト云モノハ髪モ魯西亞ノ風トナリソノ  
 シ信ニ符呪ヲ受ルニ至ル又夫人工名  
 与ヘテホウケニセ同嶋カムイワツカヲイ  
 ト改ルモノアリ  
 ニ於テ木ヲ立テ標トス翌年エトロフ



島ヲ新寔シ魯西亞人授ル所ノ佛ヲ棄シ  
ヲ魯西亞人変スル所ノ風俗ヲ改テ本邦ノ  
風俗トナス エトロフ島ハ既ニ我版圖ニ入レハ此  
ニ載セス然レモ其政十二年初テ日本  
船ヲ通シ漢場ヲ辰キシハ東部ノ 却威光海  
外ニ溢ル、所ニシテ此条ノ世伊豆ノ八丈ヲ  
寔キミ以未 初テ寔島アリシ下ナルヘシ今ハ  
エトロフモ東妻一二ノ良土トナリシヤナ  
シ會所トシテ漢場十七ハケ所マテ寔ケタリ  
寛文十二年十二月 伊勢ノ 船志摩ノ島羽  
ヨリ寔帆シテ洋中極風ニ達テ漂流シ七月  
ヲ経テ又百餘日ニシテ一大國ニ至ル則又  
トロフ島ナリ 陸上リテ夫人ノ部落工行ント  
スレモ許サス固ク諸ハ弓ヲ引テ之ヲ  
禦ク遂ニ行コトヲ不果ト新井君美此地ヲ  
論シテ北亞墨利加クルクンラント地方ノ諸

州ナルヘシト云リ正徳中北アメリカカト思ヒシ地モ今ハ  
東都ノ 却徳化ニ依テ其地ヲ辰キ其夫人ヲ  
撫育スルノミナラス儼然タル北門ノ 時ニチユブカ夫  
鎖鑰トナリシ一國家ノ慶ト云ヘシ  
人イ子ヤンケムシ未ノ 投化スイチヤンケムシハラ  
シワ島ノ産ナリ居ル一頃アツテ其子イモニ  
ケセツクルト父子共ニ本邦ノ風ヲ仰キ 遂  
ニ其俗ヲ変シテ帰化ス則イチンケムシヲ改  
テ市助ト名ク市助曾テカムサスカ地方ニ注  
来シ能ク針路ヲ毎シ其島嶼魯泊ノ在  
ル所ト風順汝路ノ宜キ所ヲ知ル於是 子童



米ヲ紙上ニ聚テ嶋形ヲ作ラシメ詰問講究  
 シエトロフノ酋長ルリシビ及イワレキイコル  
 テキアツケシノ酋長イコトイ及ハツコ其他  
 シバク子エブカ諸島エ往來經過セル夫人  
 ハウシビタカロクイベツケウシ等ト再三討  
 論シテ初テ諸島形勢ノ詳ナルトヲ  
 得タリ則図記ヲ作りテ當時進呈ス今  
 其（ミ）余稿ヲ摘テ加ルニ蛮人ノ説ヲ以テシ  
 邦弗加考ヲ作ル

ウルツプ嶋

此島ウルツプト云魚多キニ因テ名  
 ク松前人ハ此島ヲ獺島ト云  
 鑿夫ハ所謂ラツス島ハ別地ニ  
 シテ此島ノ東洋ニ在リ下ニ見ユ  
 此島魯西亜人改名ケテヲトセナツサ  
 トイト云南ニ港アリ夫人ハワニナウ  
 ト云魯西亜人ハシヤハリント云獺  
 嶋場南ハシハキシ北ハコロシト云

此島今本邦ト魯西亜ト分界ノ地トナレリ

エトロフ島カムイワツカライヨリウルツプ島ヲ  
 カイワタラ迄渡海九十六七里寅ニ當ル順風  
 ハ未申ヲ吉トス島ノ周廻九七十里モアルヘシ  
 港泊ハ東辺ハトホ深九西辺ハワニナウニ在リ



此地古来ヨリエトロフクナシリ子モロアツテ  
四部ノ夫人ノ獵虎澳場ニルテ魯西亞人モ古  
来入會獵虎澳セシ所ナリ然レ土着ノ夫人ナ  
ク夏秋ノ間集リ澳スルノミニテ時トニテ越年  
スルモノアリ魯西亞人ハ古来ヨリ多ク此地ニ越  
年ス三十年前魯西亞人ト墜夫人ト此地ニ於  
テ争鬪アリソルヨリ後レモシリ前路ノ夫人尽  
ク魯西亞ノ属トナル寛政七年魯西亞人一時  
ニ六十人渡来漸々ニ帰国シ其中ク子トブシ

其外十七人居残りテ于今此島ニ在苗シ女三人ア  
リ生ム所ノ子既ニ七八歳ニ及ヘリ魯西亞人初テ東  
辺トホニ居ル今  
ハ西辺ワニナウエ移ル  
ロシヤノ始未下ニ見ユ其産物ハ獵虎ヲ第一トス  
夫人ハラツコヲ捉ニ弓ニテ射ヤスニテ突ク魯  
西亞人ハサシ細ヲ張リ鉄炮ニテ打ナリ又ニ  
ノト云此腸ヲ  
トナル貝多シ獵虎ハ好テ此貝ヲ食  
フ其他アガラシ海豹鮭鱒ウルツブ近来名ヲ与ヘテ紅鱒  
ト云フ島ノ名モト此  
莫多キニ依テ兩鱒イルカ鯨ヲキナ是ハウルフヨリ  
チリボイノ海中  
ニ居ル鯨ノ窟大ナルモノナリ海中脊ヲ出ストキハ丘山  
ノコトシト云フ其牙長五六寸圍七八寸アリ



ノ類其木ハ樺ハシ五葉松イタヤシユイニソ類  
其山ハカビヲヌフリエト見ユフベワヌブリアグツヌ  
ブリ其周廻ハ西辺ハチカイトラシベツヨリ一日路ラチブト  
ヨリチレ一日路ツロツ子チヨリウ一日路リウツ子ツブヨ一日路  
合四日路東辺ハヨリカイトボ一日路ダトホトヨリ一日路  
リアアトイトイ一日路合三日路ニシテルナリ但ウ  
ルツブ島按換ハ天明六年官初テ夷人ヲ差  
シ山口某寛政三年官又吏ヲ差最上常矩和元  
松前ヨリ一度人ヲ差シ享和元年官又吏人

ノ差シ富山係高俱ニ其地ニ於テ魯西亜人ニ遊  
遊スト云

ヤニゲナリボイ島魯西亜人改各々

ウルツブ島ヨリ渡海凡二十里順風ハ子ヲ吉トス  
嶋ノ周廻一日路ト云港泊ナリ巖石ノ上へ寄り未  
ヲ渡シテ夷舟ヲ揚ケ置ナリ木ハ一切ニナシ  
草ノミ生ヌ魚モ少シ唯エトピルカト云鳥ノ  
ミエトハ鼻ピルカハ美ノ夷言ニシテ各ツク夥シク  
島ニテ地ノ見エサルホドニ群飛ニ手ヲ以テ容



易ニ捉得ヘキホド之 夫人此島へ渡レハ此島ノ  
 之ヲ 食料トシ 其骨ヲ拾テ薪トス此島ニカ  
 ムイワツカト云ヘル泉アリ 岩破ノ間ヨリ 僅一  
 ホドツ 涌出ル 色香トモ全ク幸キ酒ノ如シ久  
 シク酌ニ置ケバ甘クナル 其側ニテ酒ノコト噂  
 スレハ忽チニ水涸レテ又別ノ所へ涌出ルナリ  
 酒ヲ醸セシ 桶ヲ持チ行キテモ 泉出ズト  
 云実ニ奇水ナリ 魯西亜人此泉ヲ名テキ  
 スウトタト之 蜚昏ニ云クリルノ諸島ニ酒泉ヲ出ス島  
アリ 蝦夷人未テ之ヲ汲テ還ルモノアリ

トモ海上ヲ経ルニ至テ悉ク 此酒泉ノ外ニ水一滴モ  
常ノ水ニ変スルナリ ナシ又カデコロト云鳥アリ 大サ燕ノ如ク羽ハ白  
 黒ナリ之ヲ捉レハ口チヨリ 油ヲ吐出ス 此鳥蜚國  
ニモアリト  
 フ云又カモイナカブト之フ鳥ハ羽黒クシテゴメノ如  
 シ此島モ古来エトロフ美人年々 獺虎 漢トシテ渡  
 海スル所ナリ

レブニチクボイ 嶋 レブントハ夫語ノ沖ト云フナリ此島沖  
ノ方ニアルヲ以テ名ク  
 此島大サヤンゲニ同シ 獺虎アリ  
 マカニル、島 魯西亜人改  
名セシセ



此島大サチリボイニ同シ狐虎ト有リ木ナシ夫人  
此島へ至シハエトビリカ鳥ヲ担テ食料トナシ其骨  
ヲ焼テ新トスエトビリカ鳥夥シクシテ内地ノ  
鮭鱒ノ多ガ如シ此島モ古来ヨリエトロフ夫  
人獺虎溪場ナリ  
ラツコ嶋

此島ハエトロフ島ウルツブ嶋ノ東洋ニ当レリ晴天  
ニハ海上遙ニ見ユルヲアリ此地ハ本クルムセノ夫人  
ノ島ナリニ近来魯西亜人ニ俛吞セラレソノ

風俗ロシヤニ変セリ此島ニ夫人多ク住ス魯西亜  
船ニハ毎度此島ノ夫人乘リ居ルナリ魯西亜  
人ウルツブヨリ此島へ渡海スルニハアイ北風  
シモ風ニテウルツブ島ワニナシヨリ出帆ニテ真  
帆ニ帆ルナリ此島ノ夫人ハ皆鼻へ穴ヲ穿  
テ環ヲ通ス言語モ通シガタシ魯西亜人ヨリ  
文字ヲ教ヘ物ヲ各ナリ今モ其夫人一人ウル  
ツブ魯西亜人ノ所ニ来リ居ル各ヲキモヘイ  
ト云ラツコ地ヨリモ快晴ニハウルツブ見ユルト云



キモヘイウルツプニテ其本国ノ舟ヲ造ル其制舟ヲ  
トメ皮ニテ張リ袋ノ如クニ拵へ中ニハ骨  
ニ入レ夫人一人乗リテ袋ノ口ヲシメ切リ水ノ  
入ラザルヤウニシ擢ニテ左右へ揺キ走り陸へ上レ  
ハ骨ヲ去リ皮ハ疊ミヲクナリ此舟ヲ夫人ハ  
トントチツブト云魯西亜人ハコイタレト云クナシリノ  
酋長ツキノイ嘗テ云クルムセノ舟ヲ見シコトアリ  
シニ小舟ヲ皮ニテ包ミ巾着ノ口ノ如クニシテ  
其口へ身ヲ容レ皮袋ノ口ヲシメ切リ底ニ石ナト

ヲ入レ舟ヲ重クスイカナル大浪ニテモ鳥ノ浮フ  
カ如ク舟モ人モ波ノ中へク入りテ又浮クコト  
自在ナリクルムセノ人此舟ニ乗リ沖ニテ鳥ヲ逐  
シヲ見シガ両手ニハ弓矢ヲ持テ舟ハ擢ヲ動  
シタリ思フニ袋ノ中ニ糸ナトノ仕掛ケアリテ  
足ニテ擢ヲ動かセシナラシトアツケン酋長イコト  
イ異イチヤレゲムシ云クルムセノ夫人ハトイチセツ  
チヤカケイノ裔ナリ老夷傳へ云古シ夷地ニトイ  
チセコツチヤカムイト云モノ有リ其身甚短シ皆穴



居ス夫地 冥クルニ從ヒ漸ニ奥地ニ入り遂ニ其種  
族相率ヒテ筏ニ乘リ東洋ノラッコ島ヘ注キテ  
其部落ヲナセリト又カミシヤツケニモクルムセノ種  
類アリ 下ニ見ユ

シモシリ嶋 魯西亜人改名  
モムナツサトイ

此嶋ウルクツブヨリハ少シ小ナリレブニ千リポイヨリシモシ  
リ島モヨロヘ渡海ス 此渡リノ沙路ハエトロフヲ渡ヨリハ  
弱シト云ハロシノツノ沙ハ強シ

順風ハ西ヲ吉トス 順風上浮ナレハ早天ニ千リ  
ポイヲ祭シカヲ益シテ舟ヲ行リ黄昏ニシモシリ

着船スト之計ルニ三十里内外モアルベシ此島ノ前路  
ニナ木邦ノ屬夷ナリニ三十年前ヨリ魯西亜ニ服  
從シソシヨリ二十年前迄未夫人悉ク魯西亜ノ風俗  
ニ變シテ男女トモ髮ヲ釵ニ帽子ヲ被リ服ヲ靴ヲ  
着シ佛像ヲ掛ケ鉄炮ヲ持ツ魯西亜役人モ時々  
来ルナリ 寛政十年ロシヤノ役人三人此地マテ来リ越年シ翌年  
年帰国ス本国ノ頭役替リタルコト、金銀ノ吹キ直シ  
アリシコトヲ知ラズル 内地ノ夫人ハ此ヨリ前路ヲ指テ予  
フカト云其夫人ヲチユブカフイヌト云古来ハ内地ノ夫人モ  
常ニ此辺ニ注来シテ既ニアツケシノ酋長イコトイ



先祖ハシモシリノ夷長ニテマセシリ辺ニモ其親族アル由  
テトモ久シク中絶セシニ近來ハ輕物カハモ類カハモヲ指テ輕  
物ト少キニ依テイコトイ等ハ此辺マテモウタレテ來  
テ遣リテ越年サセ狨虎鷲ノ羽ヲ取ラスルナリ  
又シモシリ辺ノ夷人ハ古來ウルツフニ於テ内地ヨリ  
渡海セル夷人ト交易シ輕物ヲ持來リテ夷人ノ室  
トスル行器盃碗鍋鐺小カ古着襪狐皮酒煙中類  
ト交易セシニ今來ハエトロフ辰島ヲ聞テ同所マテモ  
來ルナリ此島ノ夷人ハカムサスカ迄住シモノア

リ昔ハシモシリニ夷人多カリシガ今ハ甚少シラシヨウ  
元ウセシリノ夷人モ冬ハ此地へ來リテ越年シ輕物ヲ  
捉ルナリ狨虎玄狐鷲鳥アリ鱒鮭ハ無シヲシリコマ  
ト云魚ノコ多シ夷人ハ草根ト魚鳥トヲ食ス着モ  
ノハ鳥ノ羽犬ノ皮又キナト云草ヲ編テ着モノトス  
按ニ禹貢ニ島夷卉服ト云此地島ヨリ前路ハ夏中モ雁  
ハコノ類ナルヘキカハ島ヨリ前路ハ夏中モ雁  
常ニ居ルナリ嶋ノ東南ニ港泊アリ其山ハア  
チウニイタンキヲイトエトクシリナト云ルアリシモシリヨ  
リケトイ島へノ渡リハ至テ迎シ半日ニテ着船ス



一ノ風順上平ナレバシモシリヨリウセシリ迄モ一日ニ至ル一

ケトイ嶋

魯西亜人改名  
ベツナツサトイ

小島ナリシモシリ嶋渡海ハ丑ヲ順風トス地渡リ  
汐略強シ夫人ハ住セスラシヨウヨリ冬中来リ  
テ就鳥ヲ捉ルナリ地獺虎アリ

ウセシリ島

魯西亜人改名  
セテイナツサトイ

ケトイヨリ未ノ風ニ渡ル小嶋ナリヲシヨウ迄至  
テ近シヲシヨウノ夫  
家見ユルト云夫人住居ス西辺ニ港泊ア

リ地島就鳥甚多シトバモアリ雁ハ夥シク午捉ニ  
ナルベシ夏中モ常ニ居ル雁ノ卵ヲ拾ヒハ入シ  
三呎モ四呎モ脊負テ帰ルホトナリ内地ノ夫人云  
嘗テウルフツブ島ニテウセシリノ夫人リ来リシヲ見  
シニ雁ノ羽ヲ衣ニ拵ヘ海豹ノ皮ヲ縁ニツケ筒  
袖縫クルニ仕立着スル片ハ頭ヨリ被リテ  
着シ皮ニテ作りシ股小ヲハキ膝マテ掛ル靴  
ヲハキ居タリ

フシヨウ島

魯西亜人改名  
テリナツサトイ



小島ナリウセにリヨリ手ノ風ニテ渡ル南ノ方ニ  
港泊アリ此島夫人住居ス魚類ナシ鳥ト草根  
ヲ食トス小島ユヘカ氣候ハ至テ寒シ然レ氏  
ウルツブ辺ト違シ冬モ氷ハルナシ歳ニヨリ  
氷流レヨルコトアリ木ハ樺ハシノ木多シ白  
キ鷹アリエトピリカハ口大サ鴨シコロシト云鳥至テ  
多シ獺虎アリ夫人ハ皆穴居ス其制穴ヲ掘テ  
上ヘ木ヲ梁ニ渡シ草ヲ蓋テ土ヲ掛ルナリ内ヨリ  
ハ階子ヲカケテ出入スエト口フ島ニ魯西亜人穴居ノ跡  
アリ又イチヤンゲムシエト口フニ居

ル片モ穴  
居セリ 扱化夷人市助ハ夫名イチヤンゲムシ後ニ今  
ノ名ニ改ム此島ノ産ナリ其着スル所ノ衣ハエトビ  
リカノ鳥ヲ丸ムキニシテ其皮ヲ羽ヲ内ニシテ幾ツモ  
縫リ附ケ筒袖ニ拵ヘ襟外袖口ト裾ヘアザヲシシノ  
皮ヲ細ク附ケ胸ト裾ヘエトビリカノ嘴ト犬ノ皮トヲ文  
飾ニ附ケ魯西亜人ヨリ得タリトテ木綿ノ服引ッ  
ユルキモノヲハキアザラシノ皮ニテ拵ヘタル靴ヲ  
穿テ頭ハ髪ヲ左右一分ケテ髪ヨリ三ツ折ニ組シ  
下ケ其上ニ帽子ヲ被ル帽子ハ裏ヲ狐皮ニテ作リ



表ハ皮ナリ是モロシヤヨリ得シ由ニテ鉄炮ヲ持テリ  
其鉄炮長サ三尺余火打仕掛ナリ塩硝ハ魯西亞  
人ヨリ得ルト云此島ノ此風俗ニナリタレモ二十  
年前ヨリノ事トイフ嘆スベキノ至リナリ市助ノ  
モンケセツクルト云十六七歳ナリ市助ハ四十歳余ナリ子エブカ夫  
人ノ風俗ヲ変シタルハ何頃ニヤト問フニ市助若年ノ頃其子ヨリ必  
シ生長ノ時暇夫入ト魯西亞人ト戦ヒシコトアリ其妻イナシ  
ソレヨリ後悉シロコヤノ風俗ニナリタリト云其妻イナシ  
ヤウシマツハヤヤシラタニノ産ナリ此俗ハ夫ト異ナルコ  
トナシ頭ニ帽子ノ被リ其上ヲ更紗ノ切ニテ包ミ後ロエ  
下ケ鳥皮ノ衣ヲ着シ股川ヲハキ唯唇ノ廻リト手

工墨ヲ入レシハ表婦ノ如シ其子イモニケセツクル八十  
六歳許リ頗ル穎悟ナリ風俗亦同シ胸間ニ十字字  
ノ鉄物ヲ掛ル是ヲケレシタト云魯西亞教師  
ヨリタル所ナリト云イナヤレケムニ亦佛像ヲ所  
持ス船中難風ノ時ハ此像ニ祈ル共ニ魯西亞  
人ヨリ受ル所ナリト云父子三人ウルツブ島へ  
来リ魯西亞人ノ所ニ居タリシニエトロフ尾島  
ヲ聞テエトロフノ酋長ノ婦船ニ搭附シテ寛政  
十二年投化セリ其夫ロシヤ人ノ所ニ從ヒ居シ故カ



頗ル機智アリ能ク方針ニ用エル事ヲ知ル此島一  
ハカムサスカヨリ魯西亜人年ニ来リ又ヨウロウ  
シイシヤムト云人時々来ルナリヨウロウシイシヤム  
ハ魯西亜人トハ風俗モ違ヒ蝦夷ノ如ク髪アリ着  
類モ別ニテ錦金入ノ羽織ノヤウナル綺靡ナルモノ  
ヲ着ス子ユブカムイノ方ヨリ魯西亜  
国主命セラレシ由ニテ  
夫人トモ銘ニ残ラスエ十文字ノ小サキ鉄物ヲ授  
ケ頸へ下ケサス之ヲケレシタト云是ハ夫人ノ守護ニテ  
此ケレシタへ祈レハ漁獵モ多クナリ又ロシヤ人ノ中

暴悪ノモノ有レ凡ハ此ノ鉄ヲ掛クレハ殺スコトナシ  
トテ乍フルナリ又夫ナキ女ハヨウロウシイシヤハ媒  
妁シテ夫ヲ持タセ女ノ帽子ヲ乍フルナリラシヨウ  
夷人ハ獵虎皮玄狐皮等ヲ持チカミシヤツケ逆生  
キ魯西亜人一頁ニ出スナリ但クシユシユタン逆生キ  
テ同所ノ夷人其皮ヲ受ケ取りラシヨウ夷人  
一兩人乗組カムサスカヘ往キウシユレコタンノ夷  
人ヨリ取次テ魯西亜人エ出スナリ子ユブカノ  
夷人獵漁スルモノハ魯西亜人ヨリ鉄炮玉茶



ヲ得ルナリ鍋ハウルツプニテ交易シテ得斧鍬ハ魯  
西亜人ヨリ得ル所ナリ此地ノ表人ナクイチユイ  
ト云モノハ魯西亜人ヨリトヤント云役名ヲ附ケテ  
フカノ嶋ニテ支配スアツケシハ魯西亜人住キシ  
トキ通祠トナリテ住シナリ魯西亜ニトヤント  
云役名アリ又ヤシヤラルト云役名アリトヤシハ乙名  
ノ如クアシヤラルハ小使ノ如シ近頃ハトヤシニハチコ  
イチユイヤシヤラルニハコレイタエリヤナト云表人ア  
リキ昔内地アツケシノ表人此地へ来リ魯西亜

人ト争鬪シ半ハ殺サレ半ハ残りタルヲ魯西亜人ニ服  
送セハ殺スマシトテ悉ク魯西亜ニ送ヒキ又此地ニ  
春ハシモシリ表人来リテ草根ヲ取り貯フ糧トスラシ  
ヨウヨリモトワ近ハ早天ニ出航シテ昼ハ着ス夕ハ  
強シ

モトワ嶋

魯西亜人改名  
ヲリニナツサトイ

小島ニシテ尖山ノミナリヲシヨワヨリ渡海ハ引四ニハ  
手ノ風汐立ニハ未申ノ間ノ風ヲ吉トスモトワヨリ  
ラツクワキヘハ近シ一日ニ往返スヘシ



ラツクワキ島

魯西亜人改名  
テエナツサトイ

小島ナリモトワヨリ午ヲ煩風トス北ノ方ニ港泊アリエ  
ハイキ迄ハ遠シ早天ニ出帆シテ薄暮ニ着船ス以  
路途シ

エハイト島

一名コタヌモシロト云妻人住居ス東北ノ方ニ港泊  
アリ又ハ島ノ東ニ千口モシリト云アリ至テ小島  
ナリエハイトヨリシヤシコタニ遠近シ一日ニ往返ス  
ヘシ

シヤニコタニ島

南北ニ港泊アリエハイトヨリ午ノ風ニテ渡ル妻人住  
居ス島中ニ湖アリクトニニタリエグルビニナト云  
山アリ投化妻人イナヤンゲムシノ妻ハハ島ノ産  
ナリハ島ノ西北ニエカルマト云小島アリ  
ハルヲマコタン島 魯西亜人改名  
テエアトイ  
小嶋ナリシヤニコタニヨリハ午ヲ煩風トス西ノ方ニ  
港泊アリハヨリヌシヤシコタニヘ一日ニ往返スヘシ  
ハ島ノ西ニマサワ子ヨト云小島アリ



スシヤシコタン島 魯西亜人改名

一名ヲニ子コタンニ此嶋周廻船路ニ日路モアルニシ

夷人住居ス 千ホヤニイハルマコタニヨリ未ノ風

ニテ渡ル南ト西ニ港泊アリ夷人住居ス此ヨリ

ボロモシリ迄至テ遠シ早天ニ出帆黄昏ニ着

岸ス夕路ハ中ホドヨリハ強カラズ此島ノ西ニマ

カニルウシト云小島アリ

ホロモシリ島 魯西亜人改名

大島ナリウルツブ嶋ホトモアルニシヤシコタン

ヨリ己午ノ風ニテ渡ル南ニ港泊アリ夷人ハベツホアル

モイニ村ニ住居ス山ハシヤシリモリチウ子ヤリニチキ

ラプロトナド云ル山アリチヤリニキノ禁ニ湖水アリ

東ノ方ニ名山アリ山ノ頂左右へ張り出テシモクノ

如ト云此ヨリクシユニコタン迄至テ近シ互ニ声ヲ通ス

一キホトナリ此西北ニヲヤツコバケト云小島アリ

ツボノ南ニヲウテニルモイシヨアワイシヨト云小島

アリ

クシユニコタン島



周廻舟路二日モアルヘシモヨロボト云港泊アリ魯西  
亞舩毎年此処ニ越年ス北ノ海濱ニ湖水アリ其  
側ニ夫人住居ス此ヨリカムサスガノ南ノ出寄レブニ  
ライシヤシ迄至テ近シ木ノ葉見ユルホドナリ午ノ風  
ニテ渡ル此辺ニツホトフルケト云ニ島アリ  
共ニ夫人住居スト云其地今知ヘカラス

カムサスガ地方又カシヤア  
ツケト云

此地モト蝦夷クルムセノ部落ニシテ我日本ノ属  
疆ナリシニ正徳上年魯西亞人併吞シテ今  
ハ彼国北海ノ要路トナレリウルツブヨリシモシリ

シ歴此ニ到テ渡海凡二百五十余里魯西亞人云凡  
子三十一里スタ

ト今本邦ノ里法ヲ以テ之ヲ計シハ二百八十六里余ニ当ル然  
レ氏蛮唇ノ圈ニ依テ之ヲ測ルニ凡二百五十里許ニシテ

其地未セル夫人ノ云  
トコロモ甚速カラス其渡海ハクシユニコタニヨリ午ノ

風ニテ此ノ地ノ南ノ出寄レブニライシヤシヘ渡リツレ

ヨリ地方ニ沿テ極キ送り凡四五日ニシテヘストワア

ビルスコイニ至ルベシトワアヒルスコイハ魯西亞人ノ

改メ名ル所ニシテ本トボニルカト云ヒカムサスガ

入海ノ大港泊ナリ魯西亞人此地ヘ砦星ヲ築キ土

午ヲ築キ海口ヘ所々大筒石火矢ヲ備ヘ魯西



巫人一人外六十人ホト在道ニ穴ヲ掘テ家トナス其穴  
居至テ深ク廣シ橋ヲテ上下ス地上ヨリ之ヲ臨  
ムハ其人小兒ノ如ク見ユルホトナリ魯西亜舩ハ毎  
年數度ヲホツカ辺ヨリ往來ニ二艘ヲ此川ニテ越年ス  
クルムセ夷人ハカハサスガ地ニ住居ス其地ヲ惣テボ  
ハカト云今魯西亜人改メ名ツケテベストワアピル  
スコイト云 寺童嘗テ東夷地アツケシ英ナルモこへツニ  
於テ其酋長等ノ語ヲ聞ケリ云昔ニ幾經朝臣ハ夷人  
ハリムイ 舟慶 夷人ハシヤマ  
イクルト云 サレ川ノ上ハイビラト云 地

ニ居テカジキトヲシノ嘴ヲ聚テ柵トナシ又下武川  
キロ、井山中へ往來セラレシニカニケシイラツプト云ル  
金色ノ羽ノ鷲鳥通リタルヲ見テ 相共ニ鳥ヲ逐テ  
ホニル、カノ国ニ至リ玉フト此ボニル、カノ国ノ事  
老夷ニ問ヘ氏知シザリシガハナユブカ夷人イチヤン  
ケムシ投化ノ時カハサスカ地方ノ事ヲ問フシバカム  
サスカノ海ロモトハボニル、カト云クルムセノ国ナリ  
今ハ魯西亜人改メ名テベストワアピルスコイト  
ムト始リボニル、カノ国名ヲ發揮セリタルム



セハ本トイチセコツナヤカムイト云へル注古蝦夷  
地ニ居ケル一種ノ夷人ノ末裔ニシテ夷地辰ケ  
夷人聚ニシタカツテ奥地一適シラツコ島并カム  
サスカ地方へ注テ部落ヲオセリ其人物ハ蝦夷  
人ニ異ルコトナク髪眼トモニ黒シ今皆魯  
西亜ノ風俗トナル其船ハ皮ヲ以テ包ム前ノラ  
ツコ島ニ見ユタリ此皮船ノコト蝦夷人ハトンド  
キツプト云魯西亜ハマイタレトイフ又魯西亜  
人ノ船木ニテ造リ傳馬船ノ如クナルハ蝦夷

人ハロクンドト云魯西亜人ハポロシヨシナイト云按ニ魯  
西亜志並東砂葛記ニ云又一種ノ夷人アリクリル  
ト云カムシカツトノ南ノ出崎及南ノ諸島ニ住ム  
大抵カムシカツトノ人物ニ似タリト云凡此地ノ  
人ハ惣身ニ毛ヲ生スルヲ異ナリトス男子ハ唇  
ノ正中ノミヲ黥シ女ハ総テ唇ニ黒キ黥シナス  
男女共ニ耳ニ銀環ヲ懸テ肘ヨリ腕マテノ間  
ニ種々ノ模様ヲ入黒スルナリ衣服居所ハカム  
シカツトカニ同シ飲食ハ魚ト海獸ヲ食トス



妻ヲ多ク具ス其姦ヲ懲ス一見巖ナリ祭ル所ノ  
神ヲイニコウルト云是ヲ祭ルニホヲウスクケツリ  
ヨリカケテ幣ノ如シ蝦夷ノ所謂イナヲナリ獸ヲ殺シ皮ヲ取リテ  
備へ祭ル肉ヲハ食用トス人死スレバ冬ハ雪中ニ埋メ夏  
ハ土中ニ葬ル

魯西亜ノカムサスカ諸島ヲ併吞蟹食セシ

本邦ノ昏記ニ考ルナシ按ニ東砂島記元魯西亜

志ニ云我明曆寛文ノ頃カ魯西亜ノテシトツト

云人カムサスカニ漂着シテ僅ニ巡檢シタルナリ

リ魯西亜人イシユユ云千六百四十三年コヲフルト云フモノ  
初テ見取ケリト按ニ千六百四十三年ハ我慶長二年ナリ

畧合即ソノ国ノ周圍ヲ廻リ見タリ其ヨリ後ハ誰アリ

テ此地ノ事ヲ魯西亜ニ通知セシムル者ナシ然ルニ

コサツカノ人アトラツフト云者此地ノ要処ヲ見タルナリ

多シ則元禄十一年被国千六百九十八年アタラソフ一軍ヲ師ニ

コトサツケニユカゲリ及コレノキヨリ此地ニ至リ土人

ヲ大半服セシメテ元禄十三年被国千七百年七月本国ニ歸ル

其得タル野サヘル皮三千二百枚ベイフル則ラツコ七十正徳

七年被国千七百十五年再ニ軍勢ヲ理ニコスモスコフト云



者シテカムサスガ及ヒ迫傍ノ諸島マテモ伐子送  
ヘリ其船ハヲホツコイ則テホツカニテイルコノ小城  
ヨリ出帆シテペンニクスノ港ニ入テカムサスカノ  
北地ニ到ル又ヲコツコイ海ヨリカムサスカノ城  
下ニモ着船スルナリ享保十六年被國千七百カム  
サスカノ人聚リ起リテ魯西亞ニ叛ク幾ホト  
モナクシテ静謐シテ其後永ク服従スベキ  
盟約ヲナシ其賦税ハ年毎ニ人々サベル  
皮ベール狐ノ皮一枚ツク出ス一ニ

蛮唇セオカラヒイ云一十六百八十九年貞享十  
子ルトシキシスコイノ内子ルトシキト云処ニ城  
ヲ築キ支那ノ境ヲ堅ム此所ニ関ヲ居ヘテ使幣ヲ  
シ交ユ鞆而鞆ノ一十七百十三年正徳カムサスカ  
ヲ伏送ス一十七百二十四年享保センスコイニ城ヲ  
築テ清朝ノ境ヲ堅メ交易シテ大ニ利ヲ得タリ  
同年カヒタニ某カムサスカ辺ノ島ニ注ラ是ヲ  
領ス蝦夷人名ヲ請テ依テサンクトラウレン  
スト云名ヲ与フ一十七百三十年享保十女帝



アシナノ時及シ程ナク又送フ是ヨリ後女帝ノ  
命令ニテ清朝ト日本トニ通路シテ二国ノ強  
弱虚実ヲモ試シ通航交易ノ事モ謀ルベシト  
云又女王アシナノ命ニテ官人一トルヒア和蘭セ  
イカビタニ沖船ノ以スハレニベルグト共ニ南日本ノ地  
方ニ臨ム赤蝦夷カムサスガノ南ロシヤ領スル外  
前路三十四島アリ船ヲ寄セ陸ニ上ラコト欲  
シトモ島人サヘテ揚ゲス此時ツルノ人ヲ船  
中ニ乗スツルノ人曰ク凡トハカムサスカノ南崎

ノ地名ナリ北所ハ蝦夷ニ近シト而テ通舟分リ  
夫ヨリ善キ島ニ到ル島人慈心アリテ能ク存  
恤ス此島能ク草木ノ果ヲ出ス其産ヲ携来  
リテ午フ亦滞留スルニ更ニ怪マス亦二人談テ  
曰シイナ支那則清ヤツハ日本ニ在リト決ス  
魯西亜本記ニ云我カ延享元年和蘭ウトシキト  
ナリスル所元文二丁巳年請臣會談シテ曰今主ノ廣徳ニ  
頼テ近隣悉ク帰服シテ縦横宏達通セサル所  
ナシ実ニ宇内ノ太平ノ基ヲ成クト云ヘシ因テ尚



クハアハカンゲルヨリ海船ヲ祭シ北亞墨利加ノ地方  
ヨリ日本及支那ニ至ルマテ遠ク巡察シテ諸外  
國ノ方物ヲ交易シテ以テ万民ヲシテ太平ノ  
化ヲ被ラシメシ之ヲ念フニ今此時ニ分レリト  
乃主コレヲ可ナリトシテ遂ニ海船ノ正司ベルヒ  
ク副司スバツレベルク 此人和蘭ノカビ  
ダンヨリ出ルニ命シテ大船ヲ  
祭セシム是ヨリ初テ都下ノ大商國王ノ許者  
ヲ蒙リテアルカレゲルヨリ商船ヲ祭シテ  
既ニ東方ニ到ル者アリ彼日本ノ近辺ニ在

テ其友人ナル船司ヘ贈リタル告文アリ即茲  
ニ附ス其文ニ曰

一日大韃靼 即北韃ノ東濱カ  
コツコイナルニヨリ出帆シテカムサツ

カノ南ニ在ルクリルト云島ニ到ル此ニ魯西亜  
ノ戎館アリ吾船中ニ人ヲ少クナ有ルニ因テ  
彼館ニ請テ其主人若干ヲ借テ其ヨリ南ニ  
行ク海中小島多シ日本ニ属シタルモ有ヨ  
シナリ船ヲ巡ラシテ之ヲ計リシルニ凡三  
十四島アリ乃一島ニ近キヲ碇ヲ下シ茲ニ





上ラントス島ノ人種々ノ器械ヲ以テ之ヲ妨  
ク是ニ於テ吾クリルノ人ヲ以テ此処ニ来ルノ  
仔細ヲ通セシム島人其証ヲ見シヲ求ム乃  
吾コレヲ明ニ示ス及仍テ其事ヲ審ニシテ後  
却テ初ノ幸アルヲ謝シタリ吾更ニ行船  
ノ備ヲ設ケテ茲ヲ去リ又別ノ一島ニ到ル其  
島人甚好意アリテ吾徒ヲ島ニ上ラシム  
此日大韃靼ヲ殺テヨリ十六日ニ當シリ此島  
沃土ニシテ諸果木美ナルヲ他ニ異ナリ吾彼

果实及其餘ノ產物ヲモ多ク採テ船中ニ  
收メ置タリ

右ハ日記中ヨリ抜萃スル所ニシテ即吾目撃  
シタル實際且其產物ヲモ持歸リテ以テ究  
理学ノ一端ニ供ントス此余交易ノ一事ハ  
之ヲ畧ス尚此地ヨリ日本支那ニ到リテ將  
ニ吾魯西亞交易ノ事ヲ圖ントスル而已  
此記事魯西亞ノ大商ノ輩須ク心ヲ用テ之ヲ續  
ヘシ即今船司スバツヒヘルク等日本支那へ通路



ノ海洋蕃ニシテ遠東外国ノ商船吾魯西亞  
ノモスクワベテルスボルクアルカシゲルノ三都會ニ  
聚リ未ニ一ヲ欲ス先主既ニ數百萬ノ財ヲ散  
シテ四方ノ民悉ク聚リ乃魯西亞北地ノ東辺  
ニ至ルマテ皆吾城壘ヲ建置スルニ及ベリ  
况ヤ此通商ノ事ニ於テハ立トコロニ之ヲ得ベキ  
ガ如シ然リト云ヘ凡但且時ノ至ルヲ期ベシ

日本人ロシヤ工漂流ノ事

宝曆三酉年

一ニ云延享元年ト然レ凡天明五年飛禪屋某ノ居ニ  
三十三年前トアルハ宝曆三ヲ以テ是トスヘキカ又

一説ニ宝曆十三年ノ頃ロシヤへ漂流人アリテ今ニ六人  
存余シ子アリ其國ヲ向ヘハ松前ト疑ラクハ傳聞ノ誤ナラン 奥羽南部

領依井村竹内徳兵衛外十六人千二百石積ノ新船へ乘

組同年十一月十四日佐井ノ港辰帆シテ難風ニ逢ヒ

北方ニ漂流シテ赤人ノ國ニ漂着ス徳兵衛カ親族勝

右衛門奥戸村伊勢屋安之甫親類利八大間村長松宮

右淺伊之衛長助等五人今ニ存生シテ赤人ノ國ノ土

人トナリ各所々ニ住居ス利ハハカムサスカ土人日本ノ通

詞ヒヨドコト云モノ、妹聳トナリ勝右衛門ハイルクツコイ

ニ住居シテ赤人ノ國王ヨリ銀錢二百文ニ抱ヘラレイル



クツコイノ有司トナリシニ男子ヲ生ナリ此子諸人ニ勝サ  
リケレハ国王ヨリヘイクラレヲンセイチヤト云フ名ヲ玉  
フ天明三年ニ至リ十七歳ニナリシカ国王ヨリ大船  
ヲ造ラシメ水主七十四人ヲ添テ勝右衛門カ子ヲ船  
師トシテゴロジタラハニエリヌカイト云港ヲ戻帆シ  
テ南方ニ針路ヲ求メテ帆セ出セリ蝦夷ノ地方ニ  
赴キシカカラフト嶋ニ着シテ土人ノ為ニ殺サレ  
船ハ流レテウルツブ島ノアダツトイニ漂着シケリ  
時ニエトロフ島ノ酋長ハツバアイノト云モノ之ジ

見テ船ニ乗りテ見ルニ無疵ノ死骸一ツアリテ  
外ニ船頭水主モ見ヘス金銀錢羅紗猩々雜菜  
夥シク空船ニ積ミ有コエハ盗ミ取り隠シ置キ  
其船ヲハ焼弃ケリ然ルニ毎年獺虎渚ニ渡  
来スル赤人ノ船遠沖ヨリ幽ニ見ヘテ段ニ間  
近ク頓テ此島へ着岸ト見ヘケレハ時ニハツバ  
アイ又思フハ赤人ノ大船焼弃テ船中ノ積荷  
物取隠シタルコト若シ露頭ニ於テハ船中  
ノ人モ我等殺シタルヤト疑モ掛ルベキ



ヤトテ日和ノ善惡ヲモ見定ムズ周章テ蝦夷  
船九艘ニ乗組百人余ニテウルツフ鳴ヨリ出船ニ  
テエトロフ島ニ遁帰ラレト 汐ノ急流ヲモ厭ハ  
ス大難海ヲ渡リシカ折節暴風強ク遂ニ沖中  
ニテ浪底ニ覆没シテ溺死シタリケル赤人トモ  
ハウルツブノ島ニ着船シテ其辺ニ遁残リタル 蝦  
夷人へ詰問スレバハツバアイヌト云モノ 当島へ漂  
流ノ船中ニ死骸一ツアリテ船主モナケレバ荷物ヲ  
取隠シ遁去リケル次方具ニ告ケレバ赤人其ヲ

聞テ大ニ怒リ此島ハ赤人蝦夷兩國入合漢業セ  
レ所ナレハ急難互ニ救フヘキニ不法ノ仕方ナリ  
トテ鬱鬱憤ヲ含ミケル 蝦夷双紙ニ載ス  
天明二寅年伊勢国白子村 神昌丸船主彦兵衛  
船頭幸大夫外十六人乗組同年十二月鳥羽出帆駿  
河沖ニテ難風ニ逢ヒ漂流シ翌卯年七月アミコツ  
カ島へ漂着同所ニ四年滞留セシニ 赤人此島へ獵虎  
漢ニ来リシ船アリ其船ニ便乞シテ同七年八月  
カハサスカへ着船同申年チキリヲ経テヲホツカへ入



津十一月ヤコラツカへ着寛政元酉年二月イルコラツカへ着  
同三年二月ヲロコヤノ城下子テルホルコ着女帝へ  
謁同十一月城下出立同子年九月十三日ヲホツカ出  
船十月三日東蝦夷地バラサシへ帰着同五日魯西亞船  
ニ乗テ子モロへ帰国ス 子年ロシヤ人未朝ノ始末ハ  
世ノ人皆知ル外ナリ故ニ畧ス  
寛政五年奥列仙臺領石ノ巻若宮丸船頭清兵衛  
外十五人同年十二月難風ニ逢ヒ翌年寅五月  
アツカト云島へ漂着卯年六月ロシヤノ船ニテヲコウ  
ツカへ着ス文化元子年九月六日五人ロシヤ船ニ乗テ

長崎へ帰国ス

魯西亞始末

魯西亞人ノ事蝦夷ハフトレシヤムト云夫言ニフトレハ  
赤キトシヤムハ人ノトナリ故ニ松前人之ヲ称シテ  
赤人ト云又赤蝦夷ト云是ハ注歳魯西亞人初  
テ蝦夷地へ渡来セシ時ニナ狸々緋ノ服ヲ着  
セリ因テ夫人之ヲフトレシイシヤムト云ト云フ赤人  
ノ蝦夷地ニ来ルノ記載ナケレハ其初ノハ知レス  
東蝦夷地モ古来ハアツケシ廻船注来ニ去人ト交易  
シソシヨリ前路ハ通船ナカリシニ四五十年前ヨリ子モロヲ



本邦ノ人注来ナク又去人モ注来 掃ナレハ委シキヲハ知リカ  
シタ 今蝦夷ノ語ハ 所ト 松前人ノ傳フル所トヲ採録シ

テ其事由ヲ見ルノ一助トス 一説ニ寛永年中赤人初テアツケニ  
三十人許リ渡来スト云 疑フニ字重

按ニ元文四年奥列辺房丹筋海上へ異国船見エ 瀬海ノモノ銀錢ヲ得タリ  
長寄へ遣ヒテ紅毛加比丹ニ見セシメラシムスコウビヤ國ノ文字ナリト云  
是日本海へ赤人船ノ来リシ初メナルニ其後明和八年  
阿波へロシヤ船来シリ 洋ニ魯西亞ノ卷ニ見ユ 三四十年前

ウルツプ島ニ於テエトロフ島ノ蝦夷人及シモシリ  
ヨリ前路島々ノ去人一同カラ合セ赤人ト争鬪セ  
シトアリ其時ハ此方蝦夷トモ討負ケタリ翌年マタ  
争鬪アリケレハ赤人トモ討負ケタリ其後エトロフ

島シモシリ前路諸島ノ蝦夷各其在齊ノ島々へ帰ケレ  
ハ赤人俄ニ襲来シテ盡クシモシリ諸島ニ打勝タリ  
ソレヨリ以来シモシリ前路ノ蠻夷残ラス赤人ノウタレ  
家来トナル然レトモウタレト成リシマテニテ其風俗ハ  
蝦夷ナリニカ近北ハ全ク赤人同様ノ俗トナレリ  
二十年前以来赤人ヨリシモシリ前路ノ蝦夷人へ教  
エテ髪ヲ結ハシメ 鉄炮玉菓ヲ与へ着装マテモ益ク  
赤人ノ風俗トナレリ 古ニケ条ハエトロフクナ  
ニリノ名ノ語ヲ記ス  
安永初年猯虎島エ赤人六十人余渡来三ヶ所エ小屋



ヲ拭ケ其小屋ハ長十四五間高サ五六尺ノ土午ヲ築キ  
上ニ桁ヲ揚ケ中ニ柱四五本立テ棟木ヲ渡シ草ヲ  
以テ葺キ壁ヲ塗リ砂ヲカゲ小屋内へ床ヲ作り出  
入ノ口ハ三ヶ所ノ土午四尺程ニ切戻キクルリ仕掛ニ板戸  
ヲ建テ窓ハ二三ヶ所ニ明ケ住居スソレヨリ日ニ海  
上へ差細ヲシテ朝夕小船ヲ以テ拭ケ試ニ細ニ入ル  
狺虎ハシメ殺シテ又網ヲ張ルナリ赤人云ウルツプ  
ハチユヅカムイ 魯西亜国  
モヲ云ノ島ナレハ捉ル所ノ狺虎ハ  
残ラスナユフカタトノへ出スベシ他ニ鬻鬻へカラズト

エトロフ乙名ハツバアイ又云此地ハ古来カムイトノ島  
ナレハ狺虎ハマシバ殺リユ出スナリ海亦此頃初テ渡来  
氣随ナリトテ争鬪シ双方午負死人少カラズ其  
後イカナル故カ和終シテ安永七年赤人初テノツカ  
マツフエ渡来セシキハクナシリ島ノ酋長ツキノイ安永  
内セリ赤人云国ノ名ヲヲロシイヤト云城下ノ名ヲ  
ムスクツト云濱ノ名ヲカムサスガト云湊ノ名ヲオホ  
ツコイト云

安永二三年ノ頃

一説ニ安永  
九年ト云

ウルツツ島ニテ赤人ト蝦



夫人ト争闘セシ起リハ夫人ノ宝トスル太刀ノ類  
ヲ古木ノ穴へ隠シ置タルニ赤人ツノホヲ伐取リ太  
刀等ヲ見出し奪ヒ取リ夫人ハ償ヲトルへ  
キトテ言ツノリ双方争論ニ及ヒ西三年モ  
取合双方横死ノ者モアリケリ

安永七戌年六月九日東蝦夷地ノツカマツブエ<sup>子内</sup>  
蝦夷船ノ如キ異船一艘ニ異国人乗組外水先ト  
シテエトロフ島ノ夫人一艘薄暮ニ渡来シ淡  
近所ニ至リ鉄炮ヲキツ蝦夷人トモ驚キ騷

キケリ程ナクエトロフノ夫人上陸シテ全ク争闘  
ノコトニハ無之赤人トモ日本人ト対面シクキ  
トテ渡来セハ由云フソシヨリ赤人トモ上陸シ濱  
辺へ仮小屋ヲ掛ケ叔赤人ノ通詞セルシモシリ  
島ノ夫人ヲ以テ云ケルハ蝦夷地ニ日本人詰合  
ヨシ兼テ承リ及ニヨリテ対面ノ事頭フ所ナリ  
ト頃アツテ夜ニ及ブ松前吏人<sup>上乗役新井田某  
目附工藤某通詞</sup>  
林右 異国人へ対面夜分ハ如何ユへ翌朝進ベキ  
ナリト答フ赤人再三願ヒケルハ日本人此所ニ



詰合ヨシ承及フニヨリテ遠海渡来不案内ナル  
當所へ来リシウへハ夜中ナリトモ対面ナケシ  
ハ安心セズ是非対面ノコト願フヨシ強テ訴  
ルニ依テ運上屋へ呼寄セ対面セリ則ハ  
小屋へ帰り其夜鉄炮用意セル赤人四五人  
其傍ニ夜番セルユへ夷人ヨリ蝦夷人へ理  
不尽ナルヲセザルヤウニ令シテ赤人へハ安堵  
シテ休息スヘシト云送りケレハ番人ハ引取  
ケリ翌十日シモシリ通詞夷人ヲ以テ赤人

云ケルハ日本ノ産物ト交易ヲ望ミ少々仕入ノ  
荷物手本物持来シリ交易ノ事殊ニ願フ  
所ナリト夷人云異国人交易ノ事ハ松前ノ指揮  
ナリテハ成ラサルヲナリ今年ハ帰国スヘシ明年  
夏ニ至リエトロフ島ニテ有無ノ返答スベシト  
テ早く帰帆セルヤウニ云ヤリケレハ十二日ノ  
ツカマツブ出帆帰島セリ其時赤人ヨリ松  
前領主へ音物書簡ヲ送シリ其書簡音  
物ハ上乘役松前へ持帰レリ翌八年夏



赤人へ去年ノ返答スヘシトテ 松前ヨリ異国  
 人忘対ノ吏人ヲ出シケルニ 順風ナクシテ 延  
 着セリ 赤人ハエトロフ 島ニテ 待居タリケル  
 カ點止カ子クナシリ 島マテ 渡来ノ 如何ク  
 沙汰モナキニヨリ 又ノツカマツブ 迄 渡来待居  
 ケルカ 一切ニ 沙汰ナカリケシハ 待兼ケルニ  
 ヤ 漸々ニ 進ミ 来リ アツケシノ 内ナクシコイ  
 迄 渡来セリ 松前吏人ハ 赤人忘対ノ為ノ選スル  
所 浅利某 松井某 二藤某  
柴田某 古屋某 通祠  
三右工門 林右工門 四月廿九日 松前出帆南部佐

井湊ニ入津 順風ナクシテ 八月四日 迄 滞船 同七日 初  
 テ アツケシ 着船ノ 処ニ 赤人トモ 待兼テ 漸々  
 押詰メ 来ル 申聞之 ナクシコイ 迄 出張リ 赤人  
 ニ 対面セシニ 日本産物ト 交易ヲ 願フ 由ナ  
 リ 則 吏人ヨリ 赤人ニ 諭シケルハ 異国 交  
 易ノ 所ハ 長崎一 所ニ 限リ 其他ハ 国法 制  
 禁ナルニ ヨツテ 何等ノ 願アルトモ 叶フヘ  
 カラス 以 来 渡海 無用ナリト云 聞カセ 且 船  
 中 用意 飯料トシテ 米十五 俵 酒 煙草 烟管



等カシ遣ス赤人ヨリ返礼トシテ上乘三人工砂  
糖三包目付二人白二包相贈リ赤人ハ直ニ帰舩

セリ以上三糸ハ天明五年蝦夷地精負人飛彈屋十人者ノ  
唇付ト松前通詞林右工門ノ唇付トヲ併セ載ス

安永八年渡来赤人ノ名  
シニサバクニ頭立タル者ナ  
リ髪ハ白サテ

系ノ裸ケタルガ如ク髪毛ハ白シ上着ハ花色羅紗股引白天  
鶴絨笠黒ビロウト録ハ狼鹿皮ナリ皮ノ鞆ヲハク赤人ハ

髪ミナ赤 正バニテ日本へ通詞ノモノナリヤクツコイノ役人ナリ  
ト云上着ハカキ色ノ下着ハ花色ニラ

シヤ股引カキ色ラシヤ笠ハ黒ヒロウト録ハキシニコニテカム  
サス

金糸太カヲ帯ス銀ノ鞆皮ノ柄鐸ナシムシクハノ人ナリ上着花色  
木綿下着フヂ色木綿股引

カノ人ナリ上着承色羅紗 下着同シ股引フヂ色木綿 里正ニトニ此ハ蝦夷人ニシテ赤人ノ通詞ヲス髪  
モノ鼠色 黒シ惣駄蝦夷人ニ同ニ上着紺色ノ

ノ唐木綿下着モヘキ色ノ 交易ハ 四維紗 狸々 緋 枝 魚  
ラシヤ耳金ハナシ

奥島 更紗皮类 茶 種类 牛馬 鳥獸类 砂糖 漬类

何ニテモ好次才交易トシ 持渡ルヘキヨシ云此一糸  
ハ赤夫

聞答ニ  
出

天明三年ウルトツブ島アタツトイヘ赤人ノ大

舩一艘漂着ス内ニ赤人ノ死骸一ツ 疵ヲ被テ

アリ外ニ金銀錢羅紗狸々緋类夥シ時ニ正

ト口フノ夷人ウルトツブニ居ケルカ此舩ヲ見テ

舩中ノ物ヲ益ク奪ヒ取り舩エハ火ヲカケ



テ燒 培タリ 松前及南部辺ニ 赤人ノ産物種々  
出シハ 此時ノ事ナリ 其跡へ 赤人渡来シテ 此  
事ヲ 聞キ 大ニ 怒リケリ 此事 詳ニ 漂流又ノ条ニ  
見ユ 此一条ハ 最上  
常矩ノ 記ヲ 載  
天明五己年 赤人三人 五トロフ島へ 渡来シヤルニ  
ヤムト云 所へセケ年 滞留シ 寛政三亥年 本国ヨリ  
呼ニ 来リ 帰国スト云 其長ハ 名ヲシノヲニトロフ  
イイシユゾヨフイシユヨト云 イハコヲツカノ人ノ由  
其次ハイワニエシコロイシユサスムスコイト云ヲ

ヲホツカノ人ノ由 僕一人アリ 名ヲニケクトムイ  
シユユ云 ヲルツプへ 赤人多勢 渡来セシニ 船中ニ  
テ イシユユハ 外赤人ヲ 午荒クセシユへ 恨ヲ生  
シ 同船ナリガタク 依テ 五トロフ島へ 逗留ノ由  
ヲ云フ 其後クナシリ 迄 渡来シ 其時 常矩 志  
対セシニ 松前ヨリ 長崎へ 至テハ 紅毛船へ 便  
乞シテ 帰国ヲ 乞ト云ヘリ シヤルシヤムノ 家ノ  
前ハ 宗門ノ 十字 杭ヲ 立テ 夷人へ 宗門ノ  
符呪 等ヲモ 教ヘタリ 又 其国ノ 傳馬ノ 證



文ノ由ニテ大節ニ所持セリ方五六寸ノ紙一横  
文字ヲ各キ下ニ細キ糸ヲ輪ニシテ結ヒ目ヲ  
作り此結目一ツアルトニツアルトニテ傳馬ノ差別  
アルト云其糸ノ上へ彼國ノ蠟ノ判ヲ押コタリ  
此證文ヲ持テハイ斯巴ニヤイタリヤ其外ノ諸  
蛮國へ注キテモ往來滞ル<sub>レ</sub>ナシト云へリ後ニ  
夷人ノ言ヲ聞ニ赤人トモ云ケルハイシユ  
事數年エトロフニ滞留遠キ島ニマテ見  
免ノタリトテ國王ヨリ賞セラシシト

イフ

エトロフ夷人ハウコビト云モノ赤人ノ凡ヲ学  
ヒ髮ヲモ長クシ暇夷人ハ髮ヲナルナリ赤人トハ殊ニ親シ  
カリシ由シ寛政戊申ノ年寺童エトロフニ至リ  
シ時シヤルシヤムニテハウシビヲ呼出シ赤人ヨリ何  
事学ヒタリヤト問ケルニ赤人ヨリ仏像ヲ典へ  
有呪ヲ教へ云ケルハ此仏像有呪ヲ尊信ス  
ハ漢業モ盛ニ難破船ノ患ナク其外顔フ  
トコロ叶ハスト云フテト其有呪ハ何ト云



ヤト向ヒシニハウシビ立テ赤人ノ如ク三ツ指ヲ  
聚メ頰ト胸ト両股ヲ指シテホツボミホシ  
ロイト云唱エ言フ三度トナヘテ拜シタリ予ブ  
カ夫入イチヤンケムシ亦同シ

天明六年四月赤人ノ舩東海ヨリ乘リ廻リ松前  
ト南部津荘ノ瀬戸ヲ西海ニ帆セ出テ松  
前ヨリ三里ホド西北エラフ村ノ沖ヨリシマコ  
マキ村ノ沖ニ繫ル時ニ蝦夷人猿舩ニテ出テ  
シバ午招シテフランスコヘ酒ヲ入シテ午ヘタリ

寛政八辰年八月東蝦夷地アブタエイギリスノ蛮舩  
一艘蛮人百十人乗ニテ渡来ス武官ノ内ニ魯  
西匠人一人アリテ松前人ヘ通弁セリ

寛政七八年ノ頃赤人ノ大舩一艘六十人内女三人  
クルムセノ蝦夷一人乗組カムサヌカヨリ出舩ノ  
由ニテ同年九月ウルトツブ島ヘ渡来ワニナウ  
ト云所ヘ上陸シテ家倉ヲ作り在住ス初辰  
年マツコタニニ任セシガ三人死シ己年三月一  
十八人帰国午年土月十四人帰国ニ残十七人



内女三人ハ此人数ハ不定ナリ今ニ居残り蝦夷人ハ  
半々帰国スベシト欺テ更ニ去ラス其赤人ノ獲  
タルモノ二人アリマイタラシト云モノハ午年帰  
国ス今ハケ子トブシトスモノ残りテ在留シ赤人  
ノ子モ出生シテ既ニ五六歳ニ及ヘルアリ其率  
ル所ノ夷人モ亦赤人ノ凡俗ニテ髪ヲ結ヒ髻  
ヲ剃ルシモシリ島ノ夷人シレイタト云モノモ  
来リテ赤人人通同ヲナス鉄炮玉薬ハ夥シク  
野へ置キ十年余常ニ用ユレトモ今尚野へア

リ赤人ノ内鍛治スルモノモアリ大ノ如ニテ毛白ク  
尾長キ獸ヲ持渡リ畜ヒ置タリ其小舟ハ二品アリ  
一ハ皮ニテ張り木ニテ骨ヲ入レ用ヒサルヤハ木  
ヲ弛シ皮ヲ疊ム大サハ圈合舟ヨリハ小ナリ蝦  
夷ハトント子ツプト云赤人ハマイタレト云一ハ木  
ニテ造ル蝦夷ハ口クント云赤人ハホロヒヨシナイ  
ト云赤人来リシ初アツテシノ乙名イコトイ  
モ此島ニ越年シ赤人トハ殊ニ親シク  
イコトイヨリモ赤人ノ国王へ獺虎皮ヲ



献タリ前々ハ赤人トモ蝦夷人へ対シ格別  
親ミタルトモナク又毎度澳場ヲ争ヒシ  
トモアリケルニ辰年エトロフ蝦夷トモ赤  
人在留後初テ渡海セルトキニハ赤人格別  
ニ夫人ヲ親ミ厚ク丁寧ヲ尽シケリエトロ  
フ夫人例年ノ如クナルソブ渡海セシニ赤人  
ノ家アリシニ不審ニ思ヒ沖合ニ踞踞セ  
リ然ルニ赤人小舟ニテ出迎ヒ酒烟料等  
飲ヒ悉ク馳走セリソレヨリ日々飲食砂

糖ナト贈リウタシニ至ルヲモ酒食ヲ以テ饗  
待セリ其上獵澳ノ事モ前々ハ常ニ争論ア  
リケルガ此度ハ然ラス蝦夷人トモ獵虎ヲ持  
進キ賣ラント之ハ日本へ出スヘキ産物ナ  
レハ買フヘカラス怪物ハ日本へ出スヘキナ  
ト云日々川細ヲ以テ澳ノ事ニテ其魚ハ半  
ハ蝦夷人へ分ナク赤人ニ向後年ニ日本  
ノ産物持来ラハ彼国ヨリモ品々持越交  
易スヘシ蝦夷地ニハ日本人モ来リ居ル工



一日本ノ産物多カルヘシ何品ニテモ持来ルヘシ  
其内皮类尤モ望ム所ナリ又米ハ格別ニ珍重  
ト云夫入ヲ見ルコトニ日本ノ米ハ所持セズヤト  
再三問フコトナリ米スラ渡スベクハ及物类何デ  
モ交易スヘシト云其赤人ノ名ワシレトコシニジ  
ブスエズドニケレトブセ長タル者イリコウ  
ツカノ産五十歳余イエフテ  
イワブセニ四十  
歳余イワニセリヤニノフ三十  
歳余ハセリセムカアセニ  
ステバニトマセフ四十  
歳余ニハイヲニクニ子エソフミテシ  
イセシエヘシエニコフニハイヲニシイキコフダニハ

ホトフ五十  
歳余ステバニガザニツヲウフ三十  
歳余ヲニシヤアレ  
キセエソ二十  
三歳イワニトロヒム三十  
歳余女二人セナニエヲニ  
ノヲリイナ三十  
七歳ヲニシヤフシキセエワ二十  
三歳女子三人  
ナタリヤ六歳ヘトシヤニ四歳ヲリイナ二歳右赤  
人于今ウルツブ島ニ在留シテ去ラズ  
ハンヘシコロウ

明和八年阿波ノ海濱工異国船漂着シ其後  
琉球国人島へ其船着岸シテ同所ヨリ長崎  
在留紅毛加比丹工居ヲ送ル蓋シ阿波ノ大守薪



水ヲ賜フノ恩茂ヲ謝シ且松前蝦夷地ヨリカム  
サスガ迄ノ要害油断スヘカヲサルヲ告ケ越  
セシナリ其加比丹ニ送りシ各ハ其時長崎ニ於テ  
通詞シテ訳サシム其文下ニ載スハニベシコロウノ  
事魯西亞ニテ名ヲアウスト云元来ポリシヤ国  
ノ士ナリシカ故アリテモスクワニ囚ハレタリ親告  
ニシテ卓量アリシ豪傑ナリ非理ナルトアリ  
テシホツカトカムサスカトノ間セシホレツコイセカ  
トフカト云所ニ左遷セラレテ居タリシ時イ

ツコイロフバセローフト云二人ノ官士ロシヤヘノ  
貢物ヲ積シ大船ニ乗テ此所ニ来ルアウス曰  
我願クハ蝦夷及日本ノ東海ヲ廻リ南洋ニ  
出テ本国ニ帰ラント志スニ今時ヲ得タリ  
トテ狼藉ニ其船ヲ奪テ展帆セントスイツ  
コイロフ大ニ怒ルハセローフ曰日本ノ東海ヲ廻ルト  
幸望ム所ナリトテ共ニ船ヲ出シ南方ニ針路ヲ  
求メ展帆セシガシモシリ島ハ善キ湊アレハ此ニ  
船ヲ繫キ薪水ヲ取リタリイツコイロフハ船ヲ出



ス一ヲ肯セス於是大ニ打擲シテ砂濱ニ棄置テ  
出帆ス其後詳ナルヲ知ラズイッコイロフハ蝦夷  
人ト共ニシモシリヨリカムサスカニ帰ル帝其心ノ空  
キ一ヲ賞スアウスハ日本ノ東海ヲ廻リテ針路  
深淺ヲ測リ四国ノ阿波へ船繫シテ薪水ヲ  
取ル時ニ阿波ノ国主厚ク撫郵アリ夫ヨリ阿  
波ヲ出帆シテ琉球国大島ニ至リ同所ヨリ長  
崎ノ紅毛加比丹へ各ヲ送リテ阿波ノ国主ノ恩義  
ヲ謝シ且日本ノ油断スマシキ由ヲ告ケ越セリ

夫ヨリ天竺ノ南洋ヲ廻リフランス国ノバテリトト云  
所ニ着船シテアウスハ又其地ニ居ルト云ハセロフハ  
船師ヲ率テ本国へ歸リ日本及蝦夷ノ地理南  
洋ノ方程ヲ言上ス帝ソノ大量ニシテ智謀アル  
ヲ賞シテ一説ニアウス後トイチ国ヨリ加比丹へ各簡ヲ送ル  
加比丹長寄へ齎来リテ出ストモ云一説ニ安永八年  
亥年長寄渡来ノ紅毛人トイチ国ヨリ其各簡ヲ持来テ同主ニ送ル  
別江城ニ上達シ長寄ノ通詞ニテ扱セシムト  
此説然クハ非ナリ 蓀衣美ヲ賜フト云其頃文字七通アリ則  
紅毛通詞ヲシテ加比丹へ古加比丹タニアルノアウルト新  
加比丹ア、レントウユルシムヘイト  
同ハシメ扱セシム其七通ノ内ニ通ヲ左ニ載ス











度ノ辺ヨリ流シテ五十六度半ニテ大東洋ニ注  
ク故ニ其地ニ名ケタルナリ日本ニテ古ヘ奥蝦  
夷ト称セシ地ナリ此地イルクツカノ東辺ノ地  
ヨリ長ク指出テ南西北長サ二百四十里ソノ南  
ノ崎ヲクリルスカヤロハチカト名リ別クルム  
セナリ五十  
一度半ニ当ル此地ハ山甚多シ然モ石山ニテ  
不毛ノ地ナリ中ニ三ツノ火山アリ昔ヨリ常ニ  
烟ヲ吐キ又時々焰ヲ出し灰ヲ降ス一ハアワ  
シニスカヤ一ハチユルハシニスカヤ一ハカムシカツトカ

ト云此山第一ノ高山ナリ毎年二三度ツ灰ヲ噴  
出ス元文二年十七百  
三十年大ニ焼出テ石及ヒ種々ノ硝子  
ノ如キモノヲ吹き出セシ一アリ又温泉極テ多  
シソノ水常ニ夏ノ熱サノ如キモアリ又常ニ  
沸騰シテ鳴リ響クアリ其傍ニテ人声ヲ  
アゲテ呼シバ濃キ烟ヲ起シテ三四丈モ  
隔リタル所ハ見ヘサルヤウニ成モアリソノ水  
面ニ黒キ沸沫アリテ午ナトニ附ケハ洗テ  
モ落カタク是地油ナリ本邦越後ノ  
奥水油ノ類ナルヘシ地震海嘯ハ



度々アリ火山ノアタリハ別テツヨシ氣候ハ一年ノ  
内八月ハ冬ノ如シ南ノ方ハ常ニ雪ノ深サ一丈  
余北ノ方ハ却テ雪ナシ夏ハ氣候ハ甚短  
シ故ニ五穀ヲ生セス但子トテルホルトカムニ  
カウトハ畑ヲモ作ルナリ雷ハ甚稀ナリ  
国人ヲカムサスガデニスト云是教百年前蒙古  
国ヨリ其人衆ヲ置タリ其人アムルト云川<sub>支那</sub>  
黒龍江トヨリ渡リテ処々ニ住居ヲ構ヘテ散在ス  
ルナリ其人物甚長大ナラス色ハ赤黒ク髪

ノ色黒シテ惣テ面濁ク鼻尖リ目深ク眉ウス  
シ垂タル腹廣キ肩手脚ハ瘦タリ皆沿海ノ所  
ニスムソノ飲食ハキワメテ穢シ黍タル狗ノ物ク  
ヒタル器ヲフノマ、拭清ムルトモセスニ用ユル  
ナリ居所ハ土ヲ四五尺掘テソノ上ニ柱四本タテ  
屋根ヲ造リ土或ハ草ニテ方フ上ニ四角  
ナル穴ヲ穿チ畑出し明リトリ出入ロニカ子  
用ユルナリ漁獵ノミヲ業トス衣服ハ諸  
ノ獸ノ皮ヲ以テ綴リ接テ用ユ家具



ハ石又鯨ノ骨獸ノ角等ヲ以テ木ヲ四ノ皿  
鉢ノコトクニシテ用ユルナリ魯西亜ヨリ  
来ル外ハ銅鉄ノ器ヲ用ユルヲ見ズ犬ヲ多ク  
養テ牛馬ノ如ク使フ雪中ニ氷上ヲ舟ニテ  
行ニ之ヲ用テ牽シムルナリ妻ヲハ何レモ  
二三人ツ持ナリ子ヲ産テ若シ狂生ナレハ  
ソノ一ヲ殺ス以前ハ土人尤野鄙愚陋ナリ  
シガ魯西亜ニ販送シテ後寛保元年十七百  
一十一年  
ヨリ女帝ノ命ニテ天教ノ會、士等ヲ遣シ

按ニチエフカ夫ノ所謂ヨウロ  
ウニイシヤムナルモノナルヘシ土人多教道守セシム  
ルニヨツテ教化モ行ハシ道理モ聞ケタレハ遠  
カラズ善良ノ民トナルヘシ又一種ノ夫人アリ  
クリシスト云カムシカトカノ南ノ出寄及南ノ諸  
島ニ住ナリクリレルスノ一前ニ見ユ守重云以上説トフ  
口我奥蝦夷ノ風土ト符合ス故ニ詳ニ載ス  
然レ氏チエブカ諸島ニテ犬ニ物ヲ引スルヲ未聞ズカムシ  
カラフト続ノ地方ハ皆同シキヲカ  
カツトカニ魚目西亜ノ小城五坐アリ一ヲホルスケ  
レツコイト云ホルスカヤト云大河ノ側ニアリペ  
ニシンスカヤノ海湾ヲ去ルヲ三十三ヲ正ルステン



一ウエルステニ三百五十丈ニ當ル空ルステニ五百一丈七尺八  
分三ウエルスク六分日本一里ニアタル  
城ノ大サ四方四十九丈方コソコイ通商ノ船先  
ツ此地ニ来リ集ル故ニ甚繁盛ナル地ナリニ  
ヲソツプルホルトカムシカワトカト云五ヶ所ノ内此城  
尤古シカムシカワトカ河源ヲ去ルヲ六十九ウエル  
ステニホルスケレツコイノ北二百四十二ウエルステレ  
ニ在リ倉庫武庫ヲ設ク三ツ子一テハホルトカ  
ムシカワトカト云ヲソツフルホルトノ即位三百九十七  
ウエルステニカムシカワトカ河口ヲ去ルヲ三十ウエル

ステニ城ノ廣サ方二十八丈周リニ木柵ヲ構フ

四ヲアツフカト云元文五年十七百建ツアツフカ河

ノ港口ニ在リ寺童云今長崎工婦未ル魯西亜ノ漂民仙臺

セル各狀ニアツカト云所へ着ト五ヲテキルト云近コ口建夕

アルモ疑フラクハ地ナルカ

ル城ナリテキル河辺ニ在リ

カムシカワトカノ属島極テ多シ著キモノヲ左ニ

挙ク  
クリルノ請島ハカムシカワトノ南ノ崎ヨリ南西ノ  
方ニ連綿シテ散在ス著シキモノ二十五島ア



リ三四三十六 其瑣々タルモノ 数ヲ知ラズカムシカツト  
カニ近キハミナ 魯西亜ニ送ヘドモ遠ハ別ニ属ス  
ル所アルヘシ 或云此諸島カムシカツトカノ方ヨリ初トシ  
テロシヤノ言ヲ以テ第一島第二島ト次ヲ逐  
テ名ヲ命 此諸島ハ人クリルノ人ト互ニ交易ヲナス  
日本ノ人モ之ニ加ルナリ ウワルベ 梅ニエトロフ  
島ナルヘシ ウルベ  
此二島ロシヤニモ日本ニモ属セス但交易ヲ  
通ズルノミナリ フランド子テルニテ カラムシノ布ヲ  
如キモノナリ  
製シ日本ノ 箔 水錦 鉄器等ト交易スルナリ  
此島ノ東南ニクナシリト云 蝦夷ニ属シタル

島アリ又マツマユト云 大島アリ日本ト一線ノ海路ア  
リテ之ヲ隔ツ此島既ニ日本ニ送ヘリクナシリノ人  
ニ之ヲ審ニスルニ此海路ノ隔アルヲ去ヘリ此島  
南北凡六百里アリ日本人エソト名ク  
子ルシニスキハ黒龍江ノ岸ニアリ北極五十二度ノ  
地ナリ千六百八十九年 元禄二年 城郭ヲ築キ支那ト疆ヲ  
固メ此地ヨリ北京ト交礼ノ使節ヲ通ス  
荷蘭全世界圖昏 誤ニ云 此昏寛政年間 船来ル所  
ノ圖ナルヘシ 紅毛通詞 本末仁  
太夫ナリモノ 一ノ符号ノ横文字ノ文ニ云 此地畜ハリ  
翻訳ス



ユスラント国 則ロシヤナリノ岡老ノ筆記後ヨハン子スケイリ  
ロウト云シモノ一十七百三十四年ニ当テ出シ与フル  
地圖ニ送テ正補シタル地圖ナリ船主スパンベル  
グト云シ者カムシカツトノ地ヨリ船ヲ乗タル説ヲ  
記録ス三ノ符号ノ横文字ノ文云去ル土曜日ニ  
当テカムシカツトノ地ノ説ヲ記シテ此地ニ飛脚  
一人参着セシナリ船主スパンベルケト云シ者カム  
シカツトノ地ヨリ大船四艘ヲ以テ海ニ浮シ十六日  
海路ヲ乘リ大小ノ島三十四島ヲ見同キ彼

陸ニ至ラント思ヒ小船ヲ六艘造リテ之ニ乗リ  
彼地ヲ見完ニガ為ニ人ヲ陸ニ至ラシム土人丁寧  
ニ応対ス言語ヲナスヲ能ハサシ氏錢ヲ見セシ  
ム船主ノ上ニ載配ノ人ニハヤリニキト云シ人アリ  
彼シニ此度ヲ知ラシメズシテ船主自ラ彼ノ地  
ニ至ラントシテ誤シ船主カ大君ノ重ニ一度ナル  
故ニ人ニ知ラシメズ彼カ利欲ニシテ已  
カ大君ノミニ披露セコトヲ思ヘリ是ニ  
因テ裁配ノ人謀ヲ成シ彼ノ地ニ至リテ



春ヲ歴タリ意フニ日本ノ島ナラニカ彼  
ノ地ヨリ持来リし一枚ノ小銅錢大サ和蘭  
錢ノ如ニシテ少ク厚ク平ニ周郭高シ  
中ニ方孔アリ其方孔各方ノ傍ト録トノ間  
ニ一面ニハ文字アリ日本ノ文字或ハ支那  
ノ文字ナラニカ一面ハ無字ナリシトペーテル  
スビルクノ地一十七百四十年正月十三日  
垂書云 コーラニットルコ譯テ 万国傳記事ト之モノ 王国西別里亞此地  
極テ廣大ニシテ 沙漠ヨリ北方氷海ニ傍テ

其東ハ東方ノ大洋ニ至リ 蝦夷ノ東北カムシカ  
ツトカニ至ルマテ皆此部内ニ隸セリ  
蝦夷双紙云 魯西亞人イシユ云カムサスカノ  
北ニチヨウキチト云 国アリ北極六十度ニ及フ  
ト云 蝦夷ニモアラス魯西亞ニモアラス国主モナ  
カリシカ 近來魯西亞ヨリ服従セシメ 国ノ名ヲ  
改テアナカテルスコイト云 此国ニ大河アリアナデ  
リト云 因テ名トスラシニト云 獸アリ此国ヨリ北  
ハ小島ツ、キニテ 四時氷海ナシハ 通船スル



能ハス北極六十余度ニ及ブト云此国ノ人山獺ヲ

業トス 号重按ニ魯西亜志ニ云アナデル河ハカムシカツト

ク又云アナデルスキハ東北ノ隅ニシテアナシル河岸ニアリ

北極六十六度ノ地ナリ此地ナラ未タ全ク本国ニ服従セ

ス其地ノ尽ニ大ナル地アリ之ヲ 魯西亜 卑畧 イシユサス

カムシカツトカトイフ 話ヲ托ス中村 某ノ托 云ヲロシヤノ国南ハ韃靼清朝天竺

ヲ境トス清朝ノ方ハアマルト云大河ヲ国境トシ

テ 魯 齊 亞ノ国内セハフクト云所ヨリ兩國ノ交

易アリ此知ヨリ北京エ近シ本国ノモスクワト云

ベテルボルイリコーツケ イヨコツカヲホツカカム

サスカ チヨウキチ等ノ地アリヲホツカカムサスカハ

東北ノ海濱寒国ニテ穀類ナシイリコツカ辺ヨリ 飯

糧運送ス産物皮類多シ此処ヨリ東北ノ諸島へ獺

船ヲ出スツルツプ島エモ十六ケ年ホト以未獺虎

獺ノタメ年々来ルヲホツカハ守護二人下役四

十人小役二百二十人イリコツケヨリノ 勒番 所ナリ

當時守護人ノ名イワニビヨウトロイシヨヘシナン

カムサスカハ奥蝦夷ノ島ト近シ守護一人下役

二十人小役百人余當時守護人ノ名フランスイ



ニヨリニキニ 其里程ハ クナシリ島ヨリ 海路五百五  
十ウエルスタ 此里数百五十里。ウルフ 海路八百ウエ  
ルスリ 此里数二百二十里。余四尺七尺二寸ヲ五百合シテ一ウ  
エルスタト云セウエルスタラ一ミラト云是ハ海路ヲ積  
ル法ナリ陸路ハウエル  
スリヲ云テ積ナリ

唐国ノ境ニゼツフタト云処アリアモルト云ニ大  
河ヲ境トシテ北京ト交易ヲ為ス兩國ヨリ番  
所ヲ立テ境ヲ守ル北京ノ交易ノ直段荒マシ  
下ノコトシ 獺虎皮 一枚代同 百五十及ホト 獺皮 一枚代同 十及ホト  
一枚代同 三及ホト 貂皮 一枚代同 二及ホト 白海豹皮 一枚代同 二及ホト 日本ノ事聞

及ヒタルヤト問フニ長崎ト云所アリテ紅毛イスバニヤ  
ノ人年々未テ交易ス其人又ヲロシヤニ来ルモ  
ノアリ故ニ詳ニ聞及タリト云  
一書云 最上常 庫ノ記 赤人イシユヨノ記スル所渡海ノ里程  
左ノ如シノツカマツブトクナシリノ渡 六十五里ノ有リ 即十六里二十四丁  
クナシリトエトロフノ渡 二十一里ノ有リ 即五里三十丁 エトロフトウ  
ツブノ渡 六十五里ノ有リ 即十八里二丁 ウルフツブ 往 百五十五里ノ有リ 即四十二里二十四丁 ウルフ  
トナリホイノ渡 三十五里ノ有リ 即八里十二丁 ナリホイノ向 二十五里ノ有リ 即六里三十四丁 ナリ  
ポイトシモシリノ渡 百七十里ノ有リ 即十七里二十八丁 シモシリトカムサスガ



ノ渡 九百エルス カムサスガトヲホツカノ渡 九百エルス

モシリトヲホツカノ渡 九百エルス 此リ前路カムサスカ迄ノ里程請記

ニ云所大同小異ナリ今別ニ説ラ  
不作其大畧ヲ見ルノミ

魯西亞紀聞云 セチ聘使アダムラクスメンエゴロトコロ  
ウワスハヒコーウ三人ノ話ヲ起ス加夏某

ナリカニシヤツカ家数 百四五十軒代官在テ

守ル大川アリ舩ハ川ノ内エ入シ置クヨキ洞泊

アリ カニシヤツカヨリアミシ  
ツカ迄海上里教凡千四百里 同所ヨリ子キリマテ

三百七十里山越路ナリ家教凡二百軒代官

アリ子キリヨリヲホツカマテ海上里教凡八

百里代官アリ大船川エ入ル湊ハ海底砂ニテ浅シ故ニ

汐満ルヲ窺ヒ舩ヲ入ルナリ陸ヨリ二百間斗リ

沖ニ右ノ砂瀬戸ヨリ外ニ洞泊モアリ戸数凡二百軒

余同所ヨリヤコーツカ迄山越路凡千十三里代官ア

リ戸教凡五百軒此地昼夜朦朧トシテ明ナリ然

レ氏暮ニ至テサシ暗シヤコーツカヨリイハコーツ

カ迄里教凡千四百八十六里川ヲ沿フル中三

百五十里ハ旅館アリテ教凡二千百六十軒代

官アリカニシヤツカ子キリヲホーツカヤコー



ツカ等ノ代官ハ皆當所代官ノ配下ナリ  
同所ヨリ魯西亜ノ都ペテルボルマテ凡三  
チ八百二十三里古都モスクワヨリ今ノ都エ五  
十一里 日本ノ里ハラロシヤノ三里ト  
日本ノ間ニテ二百六十間ナリイルコウツカヨリ  
滿州迄 マントク 凡四百五十里大川アリ西国ノ境  
トス川ノ名ヲエシカアモローロクニ黒龍江ノ  
トナリ支那ヲキタエスコイトクニ支那ノ都  
ヲペーキント云上ヲバントクニサバリニノ島周廻  
凡七百里支那ノ夫ケレヤスト云者居ルヲホー

ツカニ阿蘭陀人六人住居スルト云イルコトツカヤ  
ゴウツカ共ニ雪フラス寒気ハ至テ甚ト云シロシ  
ヤ人冬ハ雪極ニ乘リテ住来ス極ハ犬ニヒカセ  
ルナリ犬ハ皆尾ト陰囊ヲ切ル又馬モ陰囊ヲ  
切ルナリ如此スレハ精気衰へズシテ強シト云  
陰囊ヲ切リ玉ヲ取り捨テ其アトエ塩ヲ入テ  
縫トナリアメリカ人鼻エ穴ヲ通シ牛ノ鼻ク  
リノ如クシテ骨ニテ牙ノ如ク捨エ其穴エ通  
シテ下エ歯ル下唇へモ穴ヲ通シ骨ニテ牙ヲ



拵へ下ケ置其人此度西人来シリ  
守重云 蛮唇ニウエ  
ホフニ北アメリカノ  
人類ニ牙ヲ通 アミシイツカノ女下唇ニ穴ヲ通シ骨  
セシ国アリ  
 ニテ牙ヲ拵へ其穴エ通シ下へ垂ル惣身文ニス  
 ヲロシヤ国ノヲホーツカヨリ松前ノ東妻子ム口  
 迄海上里数凡千九百里





